

視えども今こそ君臣の通絶なきが勝の事とあらず。最見寧へくらむる
あり。峰根の安土城やと腰を被り紙筆把出。而時に一首は歌を題く

かあくねんき何ともひふりへ身をも持まば多哉とかまば

道を急ひて主役崎み坂かの城に至歸る。此時義菊をへ。信長公の前前
へ出客に言狀したてまつる。只今秀秀が慾せりんと謀叛をこかげし。臣
而許を蒙らば因慈ふ秀秀を斬て弃まうさんと恩殺て見えけるにぞ。
其へ亦いづかるゆゑ名をと祝称ゆへを。蘭丸様。只今明智秀秀が登城せり
顏色といひ。今朝飯時を歎ひしゆじに嘯くら便を。おふゆく院珍在と
りしが持たる箸を取落したまひ。要時へ覺えび忙殺す。斯まで心哉累
むるの正一木下の一大車を思起りにいらそん。秀秀從来。君を假手焉
ら立ちあと屢々われを。御勅断ましまく蟹くらびと。諫言也たら暇力へ
大浪脇勇の亂ふる。然やどよ。明智秀秀へ坂本の城に歸着。城代
禪守。秋森内藤少将繁興。三郎村誠三十郎歟と呼集め。寧み安土の次
才を活躍。院珍は謀叛と決ひしたるが。各の心底いふんと聞に是才の活用も
金備よ。信長を怨むあと基ざりしれ。かく舉て移連せ勧めなるゆゑ。完雪玉子
もと添ふるが傍く。かく遂意に凝固せし。其ひこと涙りあひて。時ふ
光秀。猪揮へくる。明智左馬助。同治左馬助。丹波の兵士を付す。急だ越山の城に到り。其餘の軍ふ。山城。丹波の軍勢を集め。猪揮を指揮を受取る。
よハ密に遠慮を重ね。其餘の軍ふ。山城。丹波の軍勢を受取る。
被露して。晦日。ひだりに悉く。越山城へ軍勢を集め。猪揮を指揮を受取る。
益河。五天候。五月廿四日の三更。丹波の國へ趣ひ。秀秀の廿七日。